

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸2条3丁目2-1		
自己評価作成日	令和1年5月21日	評価結果市町村受理日	令和1年6月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JivvosvoCd=0170200448-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは郊外にあり、自然環境に恵まれている。入居者はホームに隣接しているウッドデッキや中庭を散歩する等穏やかな環境の中で過ごす事ができる。ホーム内は共有スペース、個室共に広々とゆったりとしたスペースが確保されており、日課にとらわれずに入居者それぞれのペースで過ごす事ができる。リビングの窓や居室の窓が大きく日差しが入り、明るい雰囲気である。各居室には、洗面台とトイレが其々設置されており、プライバシーも確保されやすいように配慮されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「茨戸ふぁみりあ3号棟・4号棟」は、札幌市郊外の自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している。建物内は明るく開放感のある造りで、各利用者が好きな場所でゆっくり過ごすことができる環境になっている。居室には洗面所とトイレを整備し、浴室に機械浴を備えたユニットもあり設備面でも充実したグループホームである。運営推進会議は、消防署員や警察官を外部講師として招いて防災対策や特殊詐欺などの講話を開催したり、グループホームや認知症、身体拘束についてのテーマなど毎回工夫を凝らしながら充実した内容で開催している。職員の研修を計画的に実施するとともに、今年度から各ユニットで身体拘束禁止委員会を開催して拘束に関する学びを深めるなど職員の資質向上に向けて熱心に取り組んでいる。また、管理者は日頃から職員の意見や提案に耳を傾けて働きやすい環境整備に努めている。介護計画は、居室担当職員を中心に全職員で検討し、家族の意向をサービス内容に反映させながら、本人が目標に向かって意欲的に生活できるように職員間で細やかに情報交換をして、一人ひとりの状況に応じた適切なケアを行っている。冬季以外は中庭やウッドデッキで外気浴をしたり、外食や外出など多くの楽しみごとを取り入れている。職員は、明るい笑顔で利用者とは話を交わし家庭的で温もりのある支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホームの施設理念、ホーム目標、ユニット目標があり、施設内に掲示している。年度替わりに新年度の目標と併せて、ユニット会議で再確認している。	法人グループホーム共通の4項目の施設理念に、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。年度初めのユニット目標作成時に職員間で再確認したり、職員採用時に説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校の定期的な訪問、保育園児が庭に遊びにきたり、写真をとったり交流が出来ている。又、町内会と協力し近隣にゴミ箱を設置しクリーンアップを実施したが、キツネの出現で今年度は見合わせている。運営推進会議に利用者も出席し、地域住民と交流している	小学生が来訪してよさこいや学習発表会の出し物を披露したり、協力医療機関の託児所の子供たちが散歩に来て、摘んだ花などを利用者にはプレゼントして触れ合っている。夏祭りに、利用者と一緒にフラダンスや子供ダンスなどを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、研修内容の報告や認知症講習を通じ、認知症ケアの啓発に努め、施設の特長や日常の様子を報告する事で、認知症への理解を深めている。また運営推進会議にて利用者の出席も回数は少ないが行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、日常取り組み等の報告を行っている。主に職員による講義や伝達研修を行っており、今年度は身体拘束についても取り入れた。意見交換、悩みを共有する場を持ち、サービス向上につながるよう努めている。	外部講師として消防署員や警察官を招いて、防災対策や特殊詐欺などをテーマに充実した内容で開催している。テーマに沿った意見交換も行われているが家族の参加が殆ど得られていない。議事録を送付しているが、テーマ内容の報告は少ない。	参加できない家族にも、テーマ内容が分かるような資料の送付や議事録の充実を期待したい。また、参加できない家族の意見も会議に反映できるように、事前に聞き取るなどの工夫も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の管理者連絡会を通し、情報提供があったり運営推進会議の際に地域包括支援センターからの意見を頂いている。また今年度は管理者連絡会役員代表を担い定期的に市、区を連携、会議の出席を行っている	管理者連絡会の役員会議で頻りに市役所を訪問する機会があり、分からないことがあればその都度確認して連携を深めている。利用者と一緒に住所変更や介護保険の更新で区役所を訪問したり、おむつサービスなどについて確認している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、ユニット会議の場で職員に周知し、日々職員同士で注意を払いながら、言葉の拘束を含めた身体拘束をしないケアの実践に努めている。施設も夜間の防犯目的以外には行っていない。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、禁止行為11項目を掲示している。法人の身体拘束禁止委員会を中心に、ユニットごとに委員会を開催して身体拘束や不適切な言葉遣いについて確認している。内部研修を実施し、適切なケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、内部研修において虐待防止について再確認している。入浴時や更衣時には、全身チェックを行うなど、虐待が見過ごされないように注意を払っている。また、言葉の虐待についても職員同士で注意を払う等、常に念頭においてケアを行っている。また、職員のストレスチェックを実施し防止策にも繋げている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟・4号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している家族はいるが、入居前からの利用となっている。事業所は制度について情報提供できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、十分な説明を行い理解を得ていると考える。契約と併せて質疑応答の時間を設け、その場で判断が難しい質問に対しては、統括管理者に相談し後日返答するなど、納得頂ける対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し苦情処理担当者を配置している。来設時に、ユニット職員へも意見を述べやすい環境にあり、記録に残し職員全員に周知している。定期的に家族へのアンケートを実施し意見をもらうことができている。結果は、職員全員に周知している。	家族の来訪時に本人の様子を伝え、意見や要望があれば「家族連絡記録」に記入して情報を共有している。遠方の家族や来訪頻度の少ない家族に、利用者の様子を個別便りや写真で伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の勤務内やユニット会議、アンケートの実施などで意見が述べやすい環境にあると考える。また、意見に関しては、ユニット管理者より統括管理者に伝えるなどして意見が反映できるように努めている。	管理者は、職員が何でも言いやすい環境を日頃から整備し、意見や提案をケアや運営に反映させている。業務の改善などについても、その都度話し合って検討している。年1回統括管理者との個別面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は法人内の規定があり整備がされている。給与水準は職員個々の捉え方によるが、休日の確保や残業をしない環境作りなど、働きやすい職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ユニット研修を行っており、外部研修にも参加できる機会を設けている。法人内研修も実施されているが、回数が少ないのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市や北区のグループホーム連絡会主催の研修などの機会があり交流の機会があったが、実際にはユニット管理者がグループホーム連絡会の会議や研修に出席するのに留まった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には、面談や見学を行い不安な事や希望を確認している。入居後に関しても、ご家族の協力を得ながら関わり信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時に、困っていることや不安に思っていることに耳を傾けている。入居後に関しても、日常の細かいことを報告することで信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に状況を判断し、他のサービス利用を提案する等、その時点で必要としているサービスを視野にいれて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それまでの生活歴や性格を尊重し、生活の延長上のできる役割を見つけ自立支援に努めている。また、些細なことでも敬意と感謝を忘れずに介護される一方の立場に置かない生活の支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子を伝え、家族の支援も重要であることを理解してもらった上で、必要時には相談し協力を得ることができている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本、来訪はいつでも何時でも可能で、来訪者を断ることなく自由に訪れてもらっている。家族の協力の元での急な外出の場合でも対応しており、関係を継続できるよう支援している。	近所に住んでいた方や職場関係の友人が来訪したり、電話で話をする利用者もいる。知人への年賀状の投函を職員が支援している。家族と外食したり、墓参り、法事などに出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の状態に差があるが、状況に合った座席の変更や、会話の際には遠位見守りを行ったり、お互いに理解できずにいる際には、職員が仲介する等して、一人ひとりが孤立しないように努めている。また、余暇活動の提供で交流を図るな関わり支え合えるよう支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟・4号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設や病院へ面会に行ったり、家族にその後の経過を伺う等、縁を大切に関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをくみ取ることができるように、日々の生活の中で言葉やサイン、表情から思いをくみ取り、ユニット会議で情報共有と検討を行っている。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握したり、入居後の生活状況から汲み取っている。利用開始時に詳細な項目でライフヒストリー表を作成しているが、更新や追記は行われていない。	各利用者の趣味や嗜好などの変化を具体的に把握できるように、ライフヒストリー表を活用して追記や更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や入居後の関わりの中で、これまでの暮らしの情報収集に努め職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況、精神状況を含めて「できること」「できないこと」などを含め、日々の様子を記録に残し職員が目を通したり、連絡ノートや会議で情報交換する等して把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスにおいて、計画作成者・居室担当者・他職員によってモニタリングと同時に検討を行い、思いに添える支援ができるようサービス計画書を作成している。同時に家族来設時に、本人の状況を具体的に伝える事で意見をもらう事もできている。	居室担当職員を中心にモニタリングを行い、全職員で検討して4か月ごとに介護計画を作成している。普段から家族の意向を聞き取り、サービス内容に具体的に取り入れながら、本人が目標に向かって意欲的に取り組めるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録へ詳細に記録したり連絡ノートや申し送りなどで情報を共有できている。また、状態の著しい変化が見られた際に、緊急でカンファレンスを開催することで、適切なケアに繋がった場面もあった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化がある利用者に対しては、その時のニーズに合わせたサービス提供ができるよう取り組んでいる。また、家族が入院した際の面会の送迎支援や年賀状の代理作成など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生が定期的に来訪してくれる。また、近所の子供たちが幼稚園の帰り道にホームの中庭で遊ぶ等しており、その保護者との交流も図れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月に2回の協力病院の訪問診療で対応し、他科受診が必要な場合も迅速に対応できている。また、協力病院以外のかかりつけ医がいる方は、家族対応にて定期的に受診することができている。	現在は全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医を受診する時は、状況に応じて医師間で書面でやり取りし、適切な医療を受けられるように支援している。受診状況は個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の外来看護師による週1回の訪問看護を利用し、毎日の申し送りで把握した入居者の心身の状況を報告できている。また、看護師への電話での相談においても、必要時には速やかな受診に繋がっていると考える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護添書を含めて情報を提供し、口頭での伝達も行っている。また、家族や病院の相談員との情報交換によって、退院へ向けての話し合いも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や入居の契約時において重度化した場合の説明は行っている。入居後の体調変化の際には、家族、管理者との面談にに加え、かかりつけ医の助言を踏まえて今後の方針を検討している。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って、事業所として可能な対応について説明している。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で話し合い、本人と家族のよりよい方法を検討しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践形式でシミュレーションを行っている。今年度は5月に実施した。	迅速に対応できるように、参考資料や対応マニュアルを見やすい場所に掲示し、ユニット内研修にも実践形式でシミュレーションを行っている。今年度は5月に実施した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は夜間、日中想定を年2回以上実施しているが、法人施設内、町内会とも連携が取れるよう協力体制は不十分である。防災対策として外部、内部研修、運営推進会議で講和を実施している。今年度は地震の影響、感染の影響にて水害訓練は実施できていない。	年3回、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施し、2年に1回は消防署の協力を得ている。地震時の危険箇所の確認やケア別の対応について話し合った内容をマニュアルに整備し、年1回は再確認したいと考えている。職員の救急救命訓練も計画的に受講を進める意向である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇を意識した対応や、個人的な内容は耳元で話す等、プライバシーを損ねないように配慮しての声掛けを行っている。また、職員間の排泄の報告は隠語を設定し羞恥心にも配慮している。	気になる言葉がけを確認し、利用者の思いに沿った対応を話し合っている。申し送り時に部屋番号で伝えたり、個人的な内容は他者から離れた場所で聞くなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、理解困難な方や意思の表出が困難な方に対しても急がせずに自己決定ができるように関わり、表情や仕草などで思いをくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課を主に、利用者個人の体調や気持ちに配慮し、その人のペースを崩さずに過ごせるように起床・食事・就寝なども個別に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を得て好みの服装ができています。また、家族の対応が難しい入居者には、職員が衣類や化粧品等の購入代行を行い、利用者や家族を含めた支援ができています。理容・美容室の訪問も支援の一環となっている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟・4号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	業者委託メニューで季節に合わせたメニューの提供ができています。また、個々に合わせた食べやすい器や彩を加える食器など、機能や見た目でも食の楽しみを提供している。外食や誕生日食では個々の希望を反映している。	好みに合わせて調理法を変えることもある。みたらし団子などのおやつ作りには利用者も参加している。鍋やお好み焼きパーティーを行い、海鮮料理を取り寄せて食事を楽しんでいる。レストランのバイキングで好きな料理を選ぶ機会もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は、個人記録に都度記録して確認、把握しながら一日の食事や水分量が確保できるよう努めている。また、一人ひとりの状態に合わせた食事形態や好みの飲み物の提供を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで促す方、介助が必要な方を含め全員が、起床時・毎食後・就寝前にケアを実施確認している。更に、必要な入居者は、月2回の訪問歯科を利用し清潔の保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人のパターンを把握し、本人の小さなサインや時間での誘導を行っている。オムツ類の使用は個人の状態を把握し、本人の想いと併せ其々の使用方法となっている。また、動作は部分的に評価し、個別の支援を行っている。	誘導や介助が必要な場合は排泄を記録し、個々の状態に応じて居室のトイレで支援している。間隔を把握し、失敗を少なくしている。日中は布パンツに替えたり、パッド類の使用方法について職員間で情報を交換し、日々自立に向けて検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記録し排便状況を職員で共有している。食事や水分量の把握し自然排便を基本としている。それでも排便がない場合には下剤を使用し、個々に合わせた排便コントロールを行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外で実施しているが、入居者のレベルに合わせて曜日を設定しているのが現状。ただし発汗時や其々の体調に合わせて、曜日にとらわれずに入浴を実施する等その時に見合った支援を行っている。	主に午前中の時間帯に、一人週2回以上の入浴を支援している。浴室は広く開放的で、リフト浴の設備があるユニットでは全員が湯船に入っている。入浴中は職員と会話をしたり、好きな歌をうたい気持ちよく楽しめるように対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	数か所のソファの設置や熱帯魚の展示などで休息できる場所を設けている。日中の活動の提供や不安の軽減を支援し、夜間安眠できるように個別に対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬情報は個人別ファイルに入れリビングで保管している。変更時には、留意すべき点を職員連絡ノート等で周知観察を行っている。服薬時は複数名で確認し安全な服薬解除に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	其々の生活歴を配慮したうえで、本人の希望する楽しみや手伝いを提供し、気分転換や役割を持つ支援をしている。(ぬりえ、調理補助、食器洗い、食器拭き、紙箱作り、チラシ畳み、洗濯畳み など)			

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟・4号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の希望には必ずしも添えていないと考えるが、家族の協力で外出できる支援をしたり、誕生日や季節行事で全員で外出するなど、外出を楽しんでもらえるように努めている。	L字型の建物に沿って造られているウッドデッキや中庭でお茶をしたり、散歩をして自然を身近に感じている。車椅子利用者も外気浴を楽しんでいる。花見や紅葉狩りなどの外出行事に外食を取り入れ、外出の機会を楽しめるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて支援している。個人や家族の思いを汲み取り、金銭所持の可能性と不安要素を相談し対応している。実際に使う機会は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキの購入や投函を支援している。また、届いた手紙や荷物も直接本人に渡している。電話は、携帯電話を所持している方や、職員の仲介によって電話を使用するなど、一人ひとりに合った対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、日常の様子が見えるような写真や季節に合わせた掲示物や飾りつけを心掛けている。リビングは吹き抜けになっており、季節の移ろいが感じられる大きな窓を設けている。また、冷暖房で心地よい室温を保てるように気を配っている。	共用空間は全体的に広く開放感があり、ゆったりしたソファがいくつか置かれている。居間の数か所に柱時計とカレンダー、日めくりが飾ってあり、時間や日時が意識できるように工夫している。広い廊下の壁には行事の写真や利用者の作品が飾られており居心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファを置き、そこでいつでも寛げるようになっている。そこで、一人で過ごしたり他利用者と会話したりしながら思い思いの場所で過ごすことができている。玄関ホールには、水槽があり熱帯魚を見て過ごせる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や仏壇の持ち込みを推奨し、馴染みのある環境作りを支援している。また、本人が安全に過ごせるための配慮や、快適に過ごせるような工夫で環境整備に努めている。	居室の入り口に、利用者で作った紙細工の花が季節ごとに飾られている。家具類の配置を家族と話し合い、自宅の習慣を継続し布団を使用している利用者もいる。家族の写真、観葉植物、花の飾り物などで居心地よい居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物随所に設置されている手摺の使用や滑り止めの設置、居室内の家具の配置を見直す等して、出来ることへの支援を行い、居室前の表札の設置や、数か所に時計やカレンダーの設置など、わかることへの支援にも努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ4号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸2条3丁目2-1		
自己評価作成日	令和1年5月21日	評価結果市町村受理日	令和1年6月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JirvosvoCd=0170200448-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホームは郊外にあり、自然環境に恵まれている。入居者はホームに隣接しているウッドデッキや中庭を散歩する等穏やかな環境の中で過ごす事ができる。ホーム内は共有スペース、個室共に広々とゆったりとしたスペースが確保されており、日課にとられずに入居者それぞれのペースで過ごす事ができる。リビングの窓や居室の窓が大きく日差しが入り、明るい雰囲気である。各居室には、洗面台とトイレが其々設置されており、プライバシーも確保されやすいように配慮されている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所の理念があり、施設内玄関、台所、会議室等の職員の目の届く所に掲示している。また、携帯できるカードケースもあり、理念を共有し実践につなげている。また年に1度内部研修で理念について話し合いを行っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校の定期的な訪問、保育園児が庭に遊びにきたり、写真をとったり交流が来ている。又、町内会と協力し近隣にゴミ箱を設置しクリーンアップを実施したが、キツネの出現で今年度は見合わせている。運営推進会議に利用者も出席し、地域住民と交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、研修内容の報告や認知症講習を通じ、認知症ケアの啓発に努め、施設の特長や日常の様子を報告する事で、認知症への理解を深めている。また運営推進会議にて利用者の出席も回数は少ないが行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、日常取り組み等の報告を行っている。主に職員による講義や伝達研修を行っており、今年度は身体拘束についても取り入れた。意見交換、悩みを共有する場を持ち、サービス向上につながるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の管理者連絡会を通し、情報提供があったり運営推進会議の際に地域包括支援センターからの意見を頂いている。また今年度は管理者連絡会役員代表を担い定期的に市、区を連携、会議の出席を行っている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要以上の施錠は行っていない。身体拘束については、ユニット会議等で日々のケアを振り返り身体拘束を行わないケアを実践している。また委員会を定期的に開催し、身体拘束について現状報告、取り組み等を話し合っている。フロアーの見える位置に身体拘束11項目を掲示している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行いその種類や要因を深め、日常から言葉による虐待や抑制についても、常に意識してケアにあたっている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟・4号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人については利用している入居者がいない為活用していないのが現状である。事業所としては必要に応じて支援する体制を整えている。有期実習型職業訓練を実施し、学ぶ機会を設けていない為、必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	概ね管理者・施設長が対応しており、契約時に重要事項説明書、契約書の内容の説明を十分に行い、不安や疑問点に関しても耳を傾け理解を頂くよう努めている。また改正等は書面にて説明を行い郵送し、同意書の返送を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情処理対応者・第三者機関を設置しているが、直接管理者や職員へ話せる環境作りが出来ており、意見箱は殆ど利用されていないのが現状である。また、ご家族へのアンケートも行ったが今年度は実施されておらず、次年度は実施の必要性がある。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で意見交換を行っており、反映できるように努めている。また日常的に申し送り等で意見を提案しやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準や労働時間などは、法人内の規定があり、やりがいや向上心を持って働けるような整備がされているかは、職員個々の捉え方により変化する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ユニット研修を行っており、外部研修にも参加できる機会を設けている。法人内研修も実施されているが、回数が少ないのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者会主催の職員研修や内外研修を通して同業者との交流する機会がある。今年度は管理者連絡会役員を担い、連絡会を通して頻繁に交流を行っているが管理者のみにとどまっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人に直接お会いして、情報収集を行い困っている事や不安な事への聞き取りを行い利用にあたっての不安に考慮している。入居初期には情報交換の会議を行い、ご本人の状態を把握する事で、安心して暮らせる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前のご家族との面談において意見や要望を聞き取り、入居後も面会時に状態報告を行ったり、意見、要望を頂いたり信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望時の問い合わせ、相談時にGHの役割を説明すると共に、ほかのサービスを紹介し、ご本人にとって必要な支援を選択できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の自立した日常生活の継続を共通認識とし、今までの習慣を尊重している。又、職員は生活を共にしている者とし、共有することで信頼関係を築き過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは利用者の日々の生活の中での出来事などあらゆる面で情報共有に努めている。また、年に1度夏祭りを開催し、御家族も参加している。本人を中心とし、職員・ご家族共に一緒に支援しているという意識を持っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主にご家族との関わりが多いが、手紙や電話のやり取りなど必要時には支援している。又、機会は少ないが知人の面会などもあり、一部の利用者ではあるが、馴染みの関係が保たれている方もいる。また面会があった時は心地よくすごしていただくよう環境に配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でも馴染みの関係が出来ており、入居者同士の関係を把握する事で関わり合えるよう支援している。又、意思疎通が困難な入居者に対しても、職員が仲介し孤立しないよう安定した関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もすぐに関係を断ち切るという事はなく、必要に応じて対応する体制は出来ているが、現状として退去後は事業所や病院機関に委ねている。郵便物等が届いた場合には郵送にてご連絡を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で日々の申し送り、会議を通して情報交換し合い、共有している。又、日々の関わりの中で本人の言葉や、表情・行動から思いをくみ取り、把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、本人や家族、関係者から情報を聞き取り、入居後もご本人との会話の中でどんな暮らしをしてきたかなどの情報収集に努め職員で共有し把握し周知している。またライフストーリーの活用も促している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録や申し送りを通して職員間での情報の共有に努めている。又、変化があった場合、会議や連絡ノートで周知し、それに合わせたケアに繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者によるモニタリング後、カンファレンス時にモニタリング結果について再度話し合いを行っている。ご家族や本人からの意見や思いを聞き取り、介護計画へつなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	重要とされる事柄については、連絡ノート、受診記録を活用し情報の共有を行っている。又、毎月のカンファレンスで話し合い、実践や介護計画に反映させプランに基づき、毎日の個人記録もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状として職員とその時の人数上対応できない事もあり、理美容以外のサービス以外の利用はないが、可能な限り柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりに合った地域資源の利用には至っていないが、地域の中で自然環境を楽しめるようが外出支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を主なかかりつけ医とし2週に1回訪問診療、週に1回訪問看護体制をとり必要性や希望に応じて他科受診も出来るよう支援している。協力病院は在宅療養支援病院として24時間往診・訪問看護体制を取っており、適時に必要な医療が受けられるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の中で、日常の身体状態を把握していただいている。又、24時間オンコールにて相談できる体制にあり、医師との連携も行い必要時には受診等の調整も協力頂いている。また、得られた情報は申し送り、ノート等で職員間で情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は添書の他、口頭にて普段の様子を伝えていく。入院中の状態はソーシャルワーカーや看護師、ご家族などと連絡を取り必要時にはメンテラ、ICなど参加をする体制あり、退院に向けての話し合いも行われており医療関係との協力を努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化への対応や方針を説明し同意を得ている。又、日々の状態を把握し疾患が変化し重症化した際には他機関への検討もするが、ご家族としての思いもあるようで曖昧な部分もある。日々の生活の中で本人の状態を細目に報告を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に迅速に対応出来るよう分かりやすい所に緊急対応マニュアルを整備し、研修を行っているが、定期的には行われていない。また救命講習も定期的に行われていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は夜間、日中想定を年2回以上実施しているが、法人施設内、町内会とも連携が取れるよう協力体制は不十分である。防災対策として外部、内部研修、運営推進会議で講和を実施している。今年度は地震の影響、感染の影響にて水害訓練は実施できていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議や研修にて言葉遣いやプライバシーについて職員で話し合いを行っているが個々にばらつきがあり、改善が必要であるのが現状である。又、各居室にトイレがあり排泄のプライバシーが確保されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の意思表示を聞いたり、自分で答えを出せるような声掛けを行っている。又、自己決定できない方に関しては、ご家族に伺ったり、本人の表情やサインから読み取り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課表はあるものの、基本的には強制せず、その方のペースにあった対応を心掛けている。利用者の状況、場面によっては入浴の時間等希望に添えない事があるのが現状である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、整容、自ら行って頂き、選択が可能な方には出来る限り自由に更衣が出来るよう見守っている。季節や天候に合わない時は一緒に考えている。又、希望により出張美容室に来て頂いている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟・4号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに関しては専門業者に依頼しており、毎日の食事には好みが反映されてるかは不明。定期的にあセスメント行い形態を個々に合わせ提供している。調理の下準備や片付けなど出来る方には参加頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスはカロリー、塩分共にメニューに記入されており把握できている。摂取量、水分量なども個々に合わせ提供しており、日々記録しケアに反映している。疾患に合わせた食事提供は現状、提供はできていない。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合わせた口腔ケアの声掛けを行いほぼ実施できている。義歯の方は夜間洗浄を行っている。また定期的に訪問にて歯科衛生士による口腔ケア指導の実施を行っている利用者もいる。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンを把握したり、食事・水分摂取量を把握し、考慮したうえで失敗せずに排泄できるよう支援している。又、各居室にトイレが設置しており、羞恥心や時間を気にせずトイレでの排泄を支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握に努めたり、朝食前に乳製品を提供したり、レクを通して毎日の体操、歩行運動等と、できる限りの便秘予防に努め、自然排便を期待しているが、必要に応じて看護師・医師へ報告し対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に曜日の指定はなく、概ね3日に1回のペースで入浴できるよう支援しており、希望時にも対応できるよう努めているが、時間帯は午前中がほとんどである。リフト浴も設置しており、身体状況に合った入浴方法を取り入れている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し安心して過ごせる自分の居場所に配慮している。ソファでくつろいだり日中臥床時間を設けたり夜間安眠できるように日中の活動時間を支援したり個々に応じて対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルがいつでも閲覧できる場所にあり、作用・副作用が確認できる。薬の変更時は連絡ノート、申し送りで情報を共有し確認している。内服の際、誤薬がないように独自のチェック表で確認を徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの希望する役割や楽しみなど、好きな事が出来るよう、好きな事やできる事の把握に努め、レクや軽作業を通して役割が持てるよう支援している。また行事等でお酒など嗜好品の楽しみも取り入れている。			

グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟・4号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日にはウッドデッキや中庭にテーブルとイスを置き、お茶を飲んで外で過ごす支援をしている。外出行事は定期的に企画し、個々の体調や安全に配慮し実施しているが、外食が多くショッピング等希望に沿った外出の機会が少ない。家族との外出、旅行等も行われている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自分で所持し、自己管理している方は少ないが、受診時等で訪れた売店や買い物レク等では本人のお金を渡し、買い物をできる方には対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された際にはいつでもできるよう支援している。知人の方などからの電話が入る事もあり、取りついでいる。郵送されてきた手紙、年賀状等は本人に渡し、本人または代筆にて返送の機会を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に努めており、フロア内に利用者、職員が作成した装飾掲示し季節合わせて変えている。又、リビングの窓は大きく日当たりも良く、季節の移りいを感じられ、天窓から雲を眺め、ゆったりと過ごせる室内となっている。浴室、浴槽は広く暖かみのある配色になっている。玄関ホールの熱帯魚前にも椅子を配置し、そこでの熱帯魚観賞の機会もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを3台設置、廊下に1台設置している。ソファなどでテレビを観たり、読書、談笑したり、思い思いに過ごせるようにしている。また玄関ホールに椅子、本棚、水槽を設置し居場所づくりの工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れた馴染みの家具や私物の持込みが可能であり、居室のレイアウトも本人の状態に合わせて、使い易いように配置して本人が過ごしてきた空間に近づけ、心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり心身共に自立した生活を送って頂くため、できる事は積極的に行っていただけるよう配慮している。施設内は廊下が広く、車いすでの自力移動も可能、また手摺もあり、それを利用して自ら自由に移動できる環境である。また居室前に木彫りの表札を設置している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム茨戸ふぁみりあ3号棟・4号棟

作成日：令和 1年 6月 23日

市町村受理日：令和 1年 6月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に参加できないご家族に、開催されたテーマ内容が分かるような報告がされていない。また、参加できないご家族の意見が反映できていない。	運営推進会議後にご家族に資料を送付する。また、参加できない家族の意見を汲み取れる仕組みを構築する。	運営推進会議開催後は、議事録とテーマ資料をご家族に送付する。また、参加できないご家族の意見を汲み取れるように、運営推進会議の案内文の変更と、ご家族来設時の聞き取りを行う。	6か月
2	23	各利用者様の趣味や嗜好の変化が把握できていない。	利用者様の経過と共に変化する趣味・嗜好を把握する。	入居時に記入頂く「ライフストーリー」の用紙を基に、カンファレンスなどで定期的に検討し内容を更新する。	6か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。